

Appointment and Web-based  
Communication Division

連携室  
だより

2026年8月



—Vol.63—



レンズ越しに結ぶ、一葉の記憶～ ウズベキスタン・ヒヴァの世界遺産「イチャン・カラ」～ 撮影者:旭川赤十字病院 副院長 瀧澤 克己

旭川赤十字病院の経営方針

瑞宝中綬章を受章して

The Best Doctors in Japan 2026-2027

当院における直腸癌に対する最先端手術の取り組み

「医療安全推進室長就任のご挨拶」「医療安全推進室の取り組み」

旭川赤十字病院外傷外科チーム(ATST: Asahikawa Trauma Surgery Team)のご紹介  
人事消息



# 旭川赤十字病院の経営方針



旭川赤十字病院 院長  
眞名瀬 博人

## [第4期中期計画]戦略テーマ

- ①健全経営の確立
- ②救急医療体制のさらなる充実
- ③がん診療体制の強化
- ④生き生きと働き続けられる職場づくり

平素から当院連携医療機関の皆様には大変お世話になり誠にありがとうございます。当院では本年度から開始する経営基本方針として第4期中期計画を策定しました。その戦略テーマは1. 健全経営の確立

2. 救急医療体制のさらなる充実

3. がん診療体制の強化

4. 生き生きと働き続けられる職場づくり

の4つです。これらの目標を達成するために日々研鑽を続けてまいります。

連日報道されていますように本年7月28日に最大震度7の熊本地震が発生し大きな被害が出ています。全国から救護班が出動していますが、当院からも救護班が出動します。

先頃、新たな地域医療構想策定ガイドラインが公表されました。この中で2040年において各医療機関が担う機能を協議し地域医療構想として策定することが求められています。また今年度、診療報酬が改定されましたが当院ではロボット手術に対する加算基準をクリアーし申請を開始しました。それに加えて地域医療体制確保加算2や外科医療確保特別加算も申請しました。これにより当院では急性期拠点病院とし

ての態勢を整備・充実させてまいります。

当院では5つの診療科でWEB予約システムの使用を開始しました。これにより患者さん自身がスマートフォンで日程調整が可能となるなど、ご紹介をいただく先生方の負担軽減にもつながると期待されています。今後、多くの診療科で対応できるよう調整を進めております。

当院では今年度、救急科医師が増員し6名体制になりました。これによって救急車の応需率の向上や救急外来診療の質向上はもちろん、院内迅速対応チームの活性化にもつながっております。

当院は連携医療機関の皆様と更に強固な協力関係を構築し、先に述べた経営方針を達成できるよう改善、改革、成長を続けてまいります。引き続き皆様のご協力とご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 瑞宝中綬章を受章して

名誉院長・特別顧問 牧野 憲一



2026年春の叙勲において瑞宝中綬章を賜りました。私の長年行って来たことが評価頂いたものと喜んでおります。それと同時に、今まで私を指導して頂いた諸先輩、一緒に仕事をしてきた人たちに支えられて綬章出来たと考ええおります。4月29日の新聞等での発表の後、多くの方々からお祝いの言葉や花などを頂きました。その数は、昨年私が定年退官した時を遥かに上回っており、叙勲の重さをかみしめている所です。

新聞の取材も受けました。一体私は何を行って来たのか？改めて考える機会にもなりました。私は前院長である後藤名誉院長に引き立てて頂き、47歳の時に副院長になりましたがその当時の副院長だった後藤先生と、地域医療はどうあるべきか、どのような病院が優れた病院なのかを話したりしていました。この頃から、病院管理の重要性に目覚めていったと言えます。2003年に後藤先生が院長になったのに合わせて副院長になりました。副院長時代に行ったことは電子カルテの導入、医療安全の推進、DPC導入、地域連携の推進と地域医療支援病院の取得、ドクターヘリの導入、地域連携ネットワークシステム(旭川クロスネット)の導入、救急医療の推進など多岐に亘っていました。そして2012年に院長になりました。院長になってからは病院の質管理、入院支援センターの設置とPFMの導入、初期研修医の増員、提案できる事務職員の養成、リハビリテーション部門の拡充、旭川クロスネットのたいせつ安心医療ネットへの移行、医療介護連携への対応、ACPの導入、RPA導入とデジタル推進室の設置、AIの導入など病院が取り組むべき課題を先取りして取り組んで来ました。これにより、旭川赤十字病院はDPC特定病院の常連とな

り、地域医療に貢献できる病院に発展したと自負しております。また、私は日赤病院グループの推薦により日本病院会での活動も行わせて頂きました。そこから、中医協の入院・外来医療の調査評価分科会委員や厚労省の医道審議会医師分科会医師専門研修部会の委員などでの活動の舞台を頂きました。中央での仕事も次第に増えて多忙ではありましたが充実した日々を送ることが出来たと考えています。

5月13日に叙勲の日を迎えました。当日はホテルニューオータニにおいて厚生労働大臣(実際には公務の都合で副大臣が代行)から勲章を頂き、それを付けて皇居での天皇陛下の拝謁に臨みました。皇居の豊明殿において陛下からのお言葉を頂き、近くでご尊顔を拝することが出来ました。71年の生涯において初めての経験であり、意義深い日となりました。

私は昨年定年退官を迎え、院内での管理業務から退きました。しかし、日本赤十字社病院グループの経営委員、日本病院会副会長などを務めております。人口減少社会を迎え、生産年齢人口減少と高齢社会の中で、医療を取り巻く環境は大きく変わってきています。そしてそれはこれからの20年間でもっと大きく変化します。この変化に合わせて、各医療機関や医療提供体制が変化することが求められています。旭川赤十字病院がそして旭川地域の医療機関が無事この変化に対応することが出来、地域医療がしっかり機能し地域の人々が安心して生活が維持出来るよう願っています。そして微力ではありますが陰ながら尽力していくつもりです。

## The Best Doctors in Japan 2026-2027に選出されて

副院長兼脳神経外科部長 瀧澤 克己

この度、「The Best Doctors in Japan 2026-2027」に選出いただきました。2013年の初選出より、14年連続での選出となります。これもひとえに、日頃より当院脳神経外科へ大切な患者さんをご紹介くださる地域の先生方、そして共に地域医療を支えてくださる皆様方の温かいご支援の賜物と、心より深く感謝申し上げます。

今後も旭川および道北地域の医療連携をさらに深め、患者さんにとって最善の医療を皆様と共に提供してまいりたいと考えております。引き続き、変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## Best Doctors 2026-2027 Doctor of Doctors Network 2025-2027 受賞コメント

副院長兼糖尿病・内分泌内科部長 安孫子 亜津子

糖尿病・内分泌内科の安孫子です。このたび「Best Doctors2026-2027」、および「Doctor of Doctors Network ～ドクターが薦める得る糖尿病の専門医～2025-2027」の認定をいただき、大変光栄に存じます。約30年以上糖尿病医療に携わり、多くの新規糖尿病薬の登場、インスリン製剤の進化、体重管理可能な薬剤の登場など、治療の幅が広がりました。血糖測定に関しても、リアルタイムに血糖変動を見ることができるようになり、低血糖を避け、より安全な治療が可能になりました。個々の患者さんの病態や生活に合わせて、どの治療を選択するかを一緒に考えていくのが糖尿病医の使命であると考えております。単にHbA1cを下げるだけではなく、合併症予防にも力を注ぎ、糖尿病をもつ人達が健康に楽しい毎日を過ごせるようなサポートを続けていきます。治療の見直しを必要とする患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ共に連携しながら糖尿病診療を行いたいと思いますので、お気軽にご相談ください。



## The Best Doctors in Japan 2026-2027受賞について

耳鼻咽喉科副部長 高林 宏輔

この度、The Best Doctors in Japan 2026-2027に選出していただきました。医師間のpure reviewにより選出されるもので、大変光栄です。私は主に鼻科学分野での活動が評価されたものと思われます。当院で過去に行われていなかった内視鏡下拡大副鼻腔手術(EMLP)、prelacrimal approach、DALMA法、T A C M I法、鼻中隔前弯矯正術、外鼻形成手術、内視鏡下頭蓋底手術、脳外科と合同の開頭経鼻同時頭蓋底手術の導入や、国内での様々な経鼻内視鏡手術トレーニングコースでの指導、海外での手術指導ボランティアなどの活動を行って参りました。外傷分野では、眼窩吹抜け骨折に対する2種類の新規術式を開発、小児眼窩吹抜け骨折の治療アルゴリズムの提唱など、和洋合わせて50本程度の論文をfirst authorとして執筆して参りました。2024年には国際的な科学研究名誉協会であるSigma Xiのfull memberに選出され、こちらも既存メンバー複数人の推薦と論文実績によって選出していただけるようで、臨床的活動と学術的活動の双方をご評価いただきました。今後も手術技術の向上と論文による発信を継続していきたいと思っております。



# 当院における直腸癌に対する最先端手術の取り組み

外科部長 山本 和幸

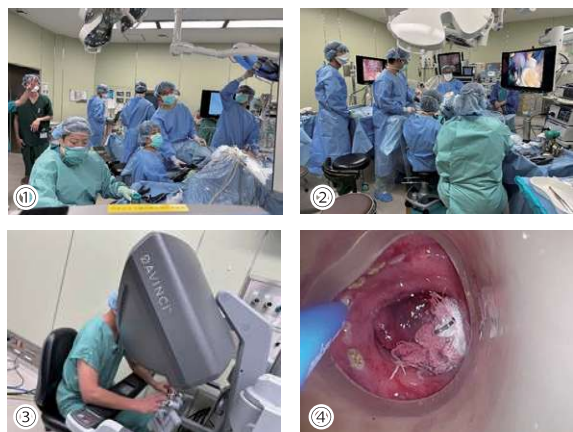
当院では、2022年3月より大腸癌に対するDa Vinci Xiを用いたロボット支援手術を導入いたしました。ロボット支援手術では、手振れ補正機能、多関節機能、3D高解像度映像などの特徴を活かすことで、従来の腹腔鏡手術と比較して、より精緻で質の高い手術を提供することが可能となりました。

現在、当院では大腸癌に対する手術のほぼ全例でロボット支援手術を施行しており、年間約120例のロボット支援下大腸癌手術を実施しています。これは札幌市内の病院に次いで、**全道第3位**の手術実績となっており、多くの大腸癌患者さんにロボット支援手術を提供しています。

また、2025年12月には「**先進低侵襲・ロボット手術センター**」を開設し、病院としてもロボット支援手術のさらなる普及・発展に積極的に取り組んでおります。

現在、当科では大腸癌に加え、食道癌、胃癌、鼠径ヘルニアに対してもロボット支援手術を実施しております。今後も、ロボット技術を積極的に活用し、患者さんの負担を軽減しながら、より安全で質の高い手術を提供できるよう努めてまいります。

直腸癌に対するロボット支援手術は、特に腹膜翻転部より肛門側の操作において非常に有用であり、当科ではこれまで多くの症例を経験してまいりました。一方で、男性、高度肥満、狭骨盤、巨大腫瘍などの症例では、ロボット支援手術であっても操作が困難となる場合があります。そこで当院では、2023年7月より**下部直腸癌に対する経肛門的直腸間膜全切除術(Transanal Total Mesorectal Excision: TaTME)**を導入いたしました。



①②③当院でのTaTME併用ロボット支援超低位前方切除術  
④経肛門操作：腫瘍の2cm手前でマーキング、切除を開始

TaTMEは、通常の腹腔側からの操作に加えて、肛門から内視鏡と手術器具を挿入し、肛門側から直腸および直腸間膜を切除する手術です。腹腔側からの操作では、直腸は深い骨盤内に位置し、さらに仙骨に沿ってカーブしているため、特に下部直腸の操作は難しい場合があります。一方、肛門側からアプローチするTaTMEでは、腫

瘍に近い位置から直腸を確認することができるため、腫瘍の肛門側縁から十分な距離を確保しながら、より正確に切除することが可能となります。また、手術器具を直線的に病変へ到達させることができるため、下部直腸に対してより繊細な操作が可能となります。さらに、TaTMEでは腹腔側と肛門側から2チームで同時に手術を行うことが可能であり、手術時間の短縮にもつながります。

このように、TaTMEは、特にこれまで手術が困難であった下部直腸癌に対して、より確実な腫瘍切除と自律神経の温存を可能にし、術後の生活の質(QOL)の向上にもつながる術式です。さらに、TaTMEの導入により、究極の肛門温存術ともいえる内肛門括約筋切除術(Intersphincteric Resection: ISR)の精度も向上いたしました。その結果、現在では、歯状線から2cm以内の進行癌を除いた**ほぼすべての直腸癌患者さんで自然肛門を温存できる体制**を整えております。

当科では、ロボット支援手術とTaTMEそれぞれの利点を活かし、患者さん一人ひとりの腫瘍の位置や進行度、身体的特徴に応じた、より安全で根治性の高い手術を提供できるよう努めております。

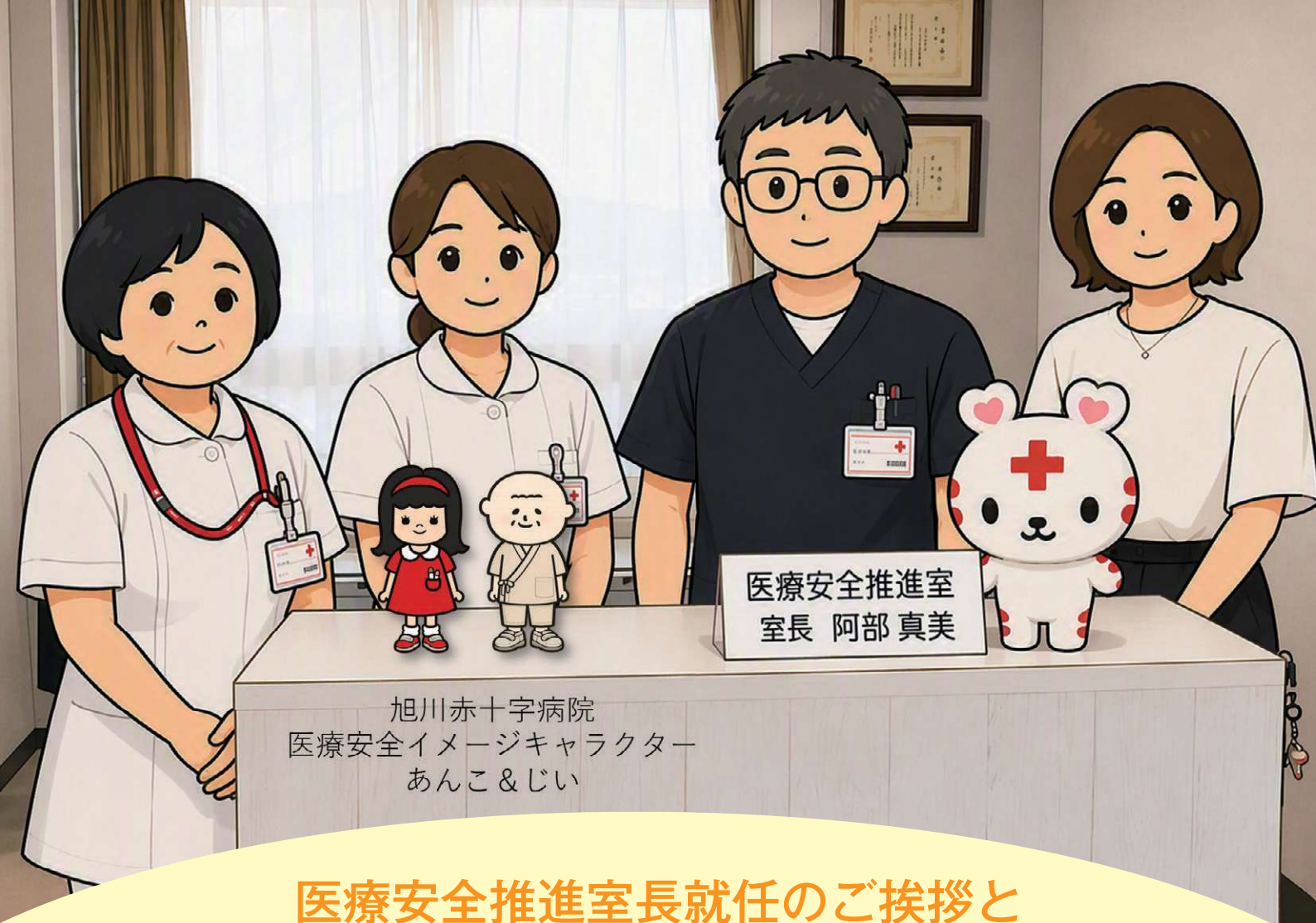
## TaTMEのメリット

- 経肛門的アプローチのため確実な断端の確保  
→**根治性の向上**
- 適切な剥離層による肛門機能温存や臓器障害の防止  
→**術後QOLの向上**
- 2チームで行うため**手術時間の短縮**

一方で、TaTMEのデメリットとして、経肛門操作では通常とは異なる特殊な視野・手技を必要とするため、剥離層を誤ることによる周囲臓器損傷のリスクが挙げられます。しかし、当院ではこれまで豊富な症例を経験し、手技の習熟と知見の蓄積を重ねることで、こうした懸念点を十分に克服し、安全性に配慮したTaTMEを実施しております。

また、当科では直腸癌に対する集学的治療にも積極的に取り組んでおります。特に下部進行直腸癌に対しては、患者さん一人ひとりの病状に応じて、術前化学療法や術前化学放射線療法を積極的に取り入れ、根治性向上と肛門温存率の向上を目指しております。

当院では、下部直腸癌に対してロボット支援手術とTaTMEを組み合わせ、それぞれの利点を最大限に活かした手術治療を提供しております。これにより、腫瘍学的な根治性の向上、自然肛門温存率の向上、さらには術後QOLの維持・向上に貢献することを目指しております。下部直腸癌の患者さんがおられましたら、ぜひ当院へのご紹介をご検討いただければと幸甚に存じます。患者さん一人ひとりの病態に応じ、最適な治療方針をご提案できるよう、積極的に診療に取り組んでまいります。



## 医療安全推進室長就任のご挨拶と 当院の取り組みについて

消化器内科部長兼医療安全推進室長 阿部 真美

令和7年4月より医療安全推進室室長を拝命し、2年目を迎えました。日頃より緊密な連携にご協力を賜っております地域の先生方・医療機関の皆さまに、改めてご挨拶ならびの当院の医療安全に対する取り組みについてご紹介させて頂く次第です。

当院医療安全推進室は、組織横断的な事故防止活動と医療安全文化の醸成をミッションとして活動しており、専従の医療安全管理者を配置し、全部門のリスクマネージャーと連携・組織一丸となって医療安全の向上に取り組んでおります。また、医療安全は当院のみで完結できるものではなく、地域の先生方との確かな信頼関係と切れ目のない情報共有があってこそ成り立つものと考えております。患者さまの紹介・逆紹介におきましても、安全情報の共有や、必要な安全対策に関する情報提供・ご相談に真摯に対応いたします。医療安全に対するご意見・ご相談がございましたら、どうぞお気軽に当推進室までご連絡ください。地域全体の医療の質と安全性の向上に向け、今後ともご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 医療安全推進室の取り組み

今年度より、GRM・看護師長を各2名体制へ増員し、より充実した医療安全体制の構築に努めております。2026年度診療報酬改定に伴い、b類型事象の情報集積体制を整え、迅速な報告を推進しています。報告された事例は医療安全推進会議で検証し、院内で共有し改善につなげております。インシデント・アクシデントレポートについては、職員が記載しやすいよう様式を見直し、寄せられた事例をもとにシステムの改善を行っています。また、多職種による安全ラウンドを実施し、患者確認方法など日常業務の安全性を直接確認しています。さらに医療安全地域連携相互監査として、他施設への訪問やメール相談にも対応し、地域全体の医療安全文化の向上に寄与できるよう取り組みを進めています。これらの活動を通し日々安全文化の醸成に努めております。今後共どうぞよろしくお願いいたします。

# 旭川赤十字病院外傷外科チーム (ATST: Asahikawa Trauma Surgery Team)のご紹介

副院長兼呼吸器外科部長 福永 亮朗

平素より当院の診療および地域医療の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この度当院の重症外傷の治療をより充実させるため、外傷外科チームを設置いたしましたのでご紹介させていただきます。

当院の救命救急センターでは脳卒中、心疾患、内分泌疾患などの内因性救急疾患と共に転倒転落や交通外傷などの外傷患者さんも多く受け入れています。比較的軽傷の場合は問題となる事は少ないものの、重症・多発外傷では全身状態が急速に悪化し、いわゆる外傷死の三徴(凝固異常、低体温、代謝性アシドーシス)がそろってしまうと、救命が極めて困難となります。

「防ぎえた外傷死:PTD(Preventable Trauma Death)」は外傷死亡総数の38.6%を占めるといわれており、重症外傷、多発外傷の治療には診療科や職種の垣根を越えてチームで迅速に対応にあたる事が、PTDの救命に重要とされています。

かねてより外傷治療の更なる充実の必要性を感じておりましたが、日本外科学会が主催する外傷外科チーム:TSAT(Trauma Surgery Assistant Team)養成研修を受講したことをきっかけに、当院でも「旭川赤十字病院外傷外科チーム(ATST: Asahikawa Trauma Surgery Team)」を立ちあげ、令和8年4月より正式運用を開始いたしました。

重症外傷受け入れ決定と同時に「トラウマコード」を発令し(図1)、院内一斉放送による「トラウマコール」を行い(図2)、5分以内に必要な職種・人員を招集します。チームを指揮する「コマンダー医師」を配置し、治療の方針や優先順位の決定を行い、その方針に従って組

織的に治療を行います(図3)。必要に応じて大量輸血プロトコル(MTP: Massive Transfusion Protocol)が発動されます。緊急を要する場合は、CTなどの検査を行わずに救急外来内で開胸開腹手術を行うこともあります。

このような取り組みにより、従来よりも治療方針決定や治療開始までにかかる時間が大幅に短縮され、「外傷死の三徴」がそろう前に迅速な対応をする事が可能となりました。重症外傷症例はそれ程頻繁に発生するものではないため、実動を想定したシミュレーション訓練を繰り返し行い、いざというときに円滑に運用できるよう、チームとしての対応力を高めています。

以上簡単ではありますが、当院の外傷外科チームについてご紹介をさせていただきました。今後もより良い外傷治療を行ってゆくために日々努力を重ねてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



実働の様子 赤ビブスがコマンダー

図1:トラウマコード体制

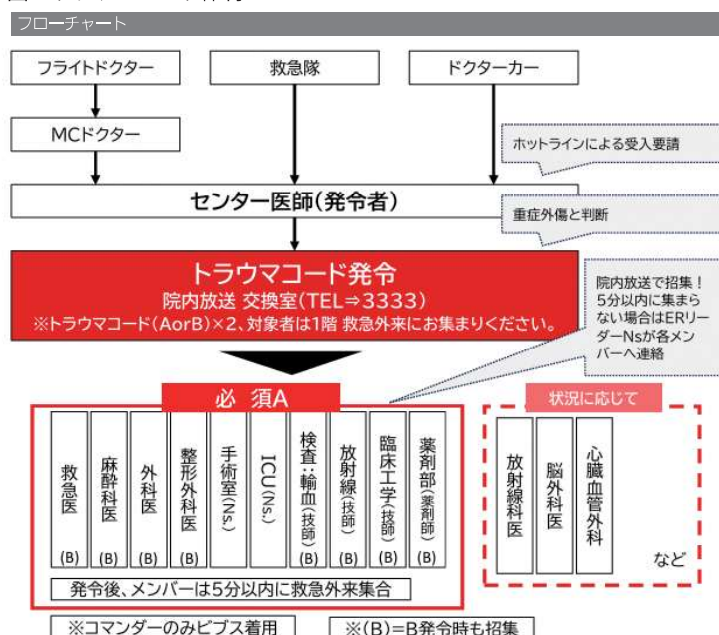
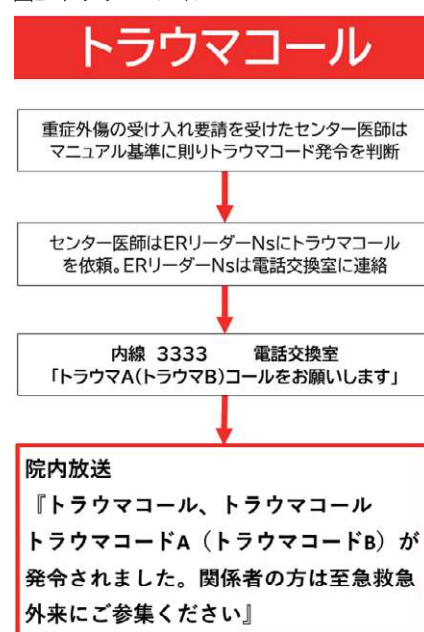


図2:トラウマコール



## 人事消息

### 退職者

令和8年6月30日  
心臓血管外科 医師  
丸岡 純

Instagram



@RED\_CROSS\_ASAHIKAWA

X



@asahikawa\_rch

地域の皆様に当院のことを広く知っていただきたく、赤十字活動、院内行事、お知らせ等を不定期に発信していきます。ぜひフォローしてください。

### 理念

赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し、質の高い医療を提供します

### 基本方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
2. 急性期医療を中心に安全で安心できる診療を進めます
3. 救急医療の充実に努めます
4. 地域の医療機関、介護・福祉施設との連携を推進します
5. 国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
6. 職員の教育、研修を充実させます
7. 健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

### 私たちは患者さまの権利を尊重します

適切に医療を受ける権利

医療に関して知る権利

医療行為を自分で選ぶ権利

プライバシーを保障される権利

人権を尊重される権利

セカンド  
オピニオンを受ける権利

### 旭川赤十字病院職員行動規範 5つの約束

1. 私たちは、来院される方と職員に笑顔であいさつをします
2. 私たちは、初対面の患者さまに、自己紹介をします
3. 私たちは、電話の最初に、部署と名前を名乗ります
4. 私たちは、患者さまに診察や説明をしたあとに「何かわからないことやご質問はありませんか?」とお尋ねします
5. 私たちは、院内で迷われている皆様にお声掛けをし、ご案内します

発行

### 旭川赤十字病院 地域医療連携室

〒070-8530 北海道旭川市曙1条1丁目1番1号

tel.(0166)22-8111(代表) fax.(0166)22-8287(直通)

URL <http://www.asahikawa.jrc.or.jp/> Email [renkei@asahikawa.jrc.or.jp](mailto:renkei@asahikawa.jrc.or.jp)